

(学年) 専攻科 2 年、(教科・科目) 看護・情報科学

個人学習

(単元) 看護と情報倫理

(本時のねらい)

1. 事例(事件)を自分のこととしてとらえ、さまざまな角度から要因を考察することができる。
2. 自分自身の倫理観を見つめ直し、看護専門職としての倫理観について考えることができる。

(ICT 活用方法)

実際に起きた「情報倫理と医療」や「患者の権利と情報」に関する事例(事件)をインターネット等を活用して検索し、登場人物や関係性、時間経過とその後の成り行きなど、分かる範囲で詳細に調べてまとめる。この事例(事件)が起きた要因を文献などを参考に考察し、個人レポートを文書作成ソフトで作成してコラボレーションプラットフォームの「課題」で提出する。

コラボレーションプラットフォームには課題の詳細をスライド資料で添付し、後で確認できるようにする。またループリック評価も添付して、学生が確認できるようにし、評価規準を明確にする。提出されたレポートは、教員がループリックで評価し、コラボレーションプラットフォームで返却する。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の詳細をとコラボレーションプラットフォームの操作方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や今後のスケジュール、コラボレーションプラットフォームの操作について説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラボレーションプラットフォームの課題にスライド(プレゼンテーションソフト)を添付しておく。</li> </ul>
展開1 80分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に起きた情報倫理に関する事例(事件)とその詳細を検索する。</li> <li>・起きた要因や対策などを文献を活用して考察する。</li> <li>・文書作成ソフトで個人レポートを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット検索をする際の注意点を再確認する。(信憑性の高いサイトを見るなど)</li> <li>・机間点検などで質問を受け、個別に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の一人一台端末で、インターネットを活用して検索する。</li> <li>・文書作成ソフトで各自レポートを作成する。</li> </ul>



## 《提出されたレポート一覧》

名前	状況	フィードバック	得点
[名前]	← 返却済み	[コメント]	39.98
[名前]	← 返却済み	[コメント]	37.98
[名前]	← 返却済み	[コメント]	43.98
[名前]	← 返却済み	[コメント]	37.98
[名前]	← 返却済み	[コメント]	39.98
[名前]	← 返却済み	[コメント]	35.99
[名前]	← 返却済み	[コメント]	41.98

一人ひとりのレポートを開いて見ることができる。提出状況はもちろん、評価も一覧になるため見比べやすい。

## 《提出されたレポートの教員画面》

医療従事者としての守秘義務の必要性

【事件】  
 患者Aは、平成10年に脳脊髄液-インク内漏と診断され、化学療法や放射線治療などを受けていた。そして、術後のリハビリで腰痛緩和のために、3週間の入院をした。担当Aの母親であるBは、飲食店を経営しつつ、朝晩の看護をしている。平成20年、7病棟の看護師であるBは、夫のCに対して、「大抵辛い病気に悩んでいる若い子があり、母親は夜の仕事を休んで、仕事が終われば少し休んだ後、看護のため付き添っている。うちの子供が3人いるが、おもしろいことが起きるかおかしなことは少ない。」と話し、Aが経営している飲食店の名前を伝えた。Cは、Aが経営する飲食店が営業が休止したことがあり、Bに対して「その店に行ったことがあるかもしれない。」と答えた。しかし、BはCに対して特に口止めなどはしなかった。その後、CはAの経営する飲食店へ来店し、Aが

フィードバック  
 夫が飲食店の人に言ったのは『脅し』とは私は取りませんでした。どのような心理があったのかなど、根拠をもとに考察出来たらよりGoodでした。

↑フィードバックも  
入力できる

## 《 ルーブリック評価画面 》

情報科学レポート						合計: 43.98/60
課題の息図を捉えて事例を選択しているか。(タイトルや参考文献含む)						重み 16.66%
<b>たいへん良い 10点</b> 課題内容やタイトル、参考文献について、不足がない。	<b>良い 8点</b> 課題内容やタイトル、参考文献について、何か1つ不足がある。	<b>まあまあ 6点</b> 課題内容やタイトル、参考文献について、何か2つ不足がある。	<b>やや不足 4点</b> 課題内容やタイトル、参考文献について、何か3つ不足がある。	<b>かなり不足 2点</b> 課題内容やタイトル、参考文献について、何か4つ不足がある。	<b>なし点</b> 条件がありません	
フィードバック						
フィードバックを入力						
事例の概要が分かりやすく記載されているか。						重み 16.66%
<b>たいへん良い 10点</b> 登場人物が明確で、何をどうしたか、どうなったかがわかりやすい。	<b>良い 8点</b> 誰が、何をしたか、どうなったか、だいたい分かる。不明瞭な部分がある。	<b>まあまあ 6点</b> 大まかに概要を把握することはできる。詳細が分からない。	<b>やや不足 4点</b> 何があったかは分かるが、どのようにしたかなど詳細がない。	<b>かなり不足 2点</b> 何があったか分からない。	<b>なし点</b> 条件がありません	
<a href="#">.csvとしてダウンロード</a>						<input type="button" value="完了"/>

合計点は自動で計算され、成績は表計算ソフトにエクスポートできる。

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

課題の提出を電子データにすることで、提出忘れや提出遅れがなく、全員期限内に提出することができた。しかし、操作ミスがないよう各自で確認するよう説明していたが、それでも2名が文書の添付なしで提出していた。社会に出てから書類の提出などを電子媒体で行うことも多くなるため、操作に慣れるためにもこのような電子データでの提出を増やしていきたいと思った。

教員側としては、電子データなので保管の場所もいらず、評価においてもルーブリック項目をクリックしていけば自動で点数が計算され反映されるため、負担が軽減されていると感じた。各項目にフィードバックも入力できるため、なぜこの評価なのか、生徒に明瞭な説明をすることができた。